

令和5年度 事業報告書

1 概況

2023年度(令和5年度)は、新型コロナウイルス感染症の5類移行という制限緩和により、数年にわたり景気を制約してきた要因の1つが解消され、企業・国民の経済活動において本格的な回復がもたらされた事業年度となった。他方では、世界的な物価上昇に加えて急激な円安の進行、また全国的な労働力不足など、日本経済における諸問題が一層浮き彫りとなった1年であった。

このような事業環境にあって、当財団では、一大プロジェクトであった「とちぎ健診プラザ移転事業」について、2023年8月に同じ小山市内に新施設が竣工となり、開業準備を経て翌年1月にグランドオープンを果たした。同施設はオープン後も順調に受診者数を伸ばしており、2024年度以降の当財団の収益拡大に大きく寄与することが期待される。

また、各拠点の運営面においては、新規集客を見据えた各種媒体によるPR活動強化に努めるとともに、きめ細やかな接客サービスを提供していくことで顧客満足度を高めリピーター獲得に繋げた。なお、運営上の課題としては、昨今あらゆる業界で問題となっている人手不足の影響を当財団でも受けており、人員確保について長期的な対応が求められることとなった。

上記より、一部の継続課題はあるものの、業績面では、2023年度の事業収入(税抜)が前年度比で約4億円の増収となる105億円、営業利益はとちぎ健診プラザの移転費用を吸収しなお前年度同水準の23億円台を確保することができ、総じて良好といえる事業年度となった。

2 健康診断事業・診療事業

【 新宿健診プラザ 】

新宿健診プラザは、2018年1月の施設新築移転以来、施設収容能力の拡大や業務の効率化等、大型健診施設の運営ノウハウの積み上げを図るとともに、接客に注力した健診サービスの提供により、他の健診機関との差別化を一貫して行ってきた。

その基本方針を継続し、受診者の満足度を高め施設評判を着実に上げることにより、施設健診では昨対比7千人増、また事業収入面でも前年度に続き増収を達成し、一年を通じて好調な事業年度であった。

【 伊勢崎健診プラザ 】

伊勢崎健診プラザでは、施設健診における受診ピークの平準化の取り組みが奏功し、限りある検査枠を有効に活用する等、創意工夫をもって運営した一年であった。

巡回健診においては、事業所との契約見直し等を図るとともに、検診車の稼働率を上げ、委託班数を抑制することにより外注コストを低減させた。

上記の施策を通して拠点運営がより理想的な形に近づいたことで、当事業年度でも大幅な増収にて

着地することができた。

【 とちぎ健診プラザ 】

とちぎ健診プラザでは、2023 年度が既存施設における最終営業年度であり、また新施設での営業に繋げるための重要な1年と位置づけて施設運営を展開した。2024年1月にオープンした新施設においても、施設PRはもちろん一貫して受診者への細やかな接客サービスに注力したことで、施設評判として想定以上の好評を博すことができた。新施設での本格営業となる2024年度に向けて、非常に良い形でスタートを切ることができた。

【 山形健康管理センター 】

山形健康管理センターでは、健診受診の時期および時間帯の平準化を目的としたPR活動に注力したことで、受診者数は年間を通じて堅調に伸びを見せ、拠点業績は昨対比+6%の増収を達成することとなった。

【 各拠点の診療事業 】

健診・人間ドック実施後の二次検査の実施、および外部専門医療機関との連携等に注力し、健診後のフォロー体制の充実化に努めた。

以上